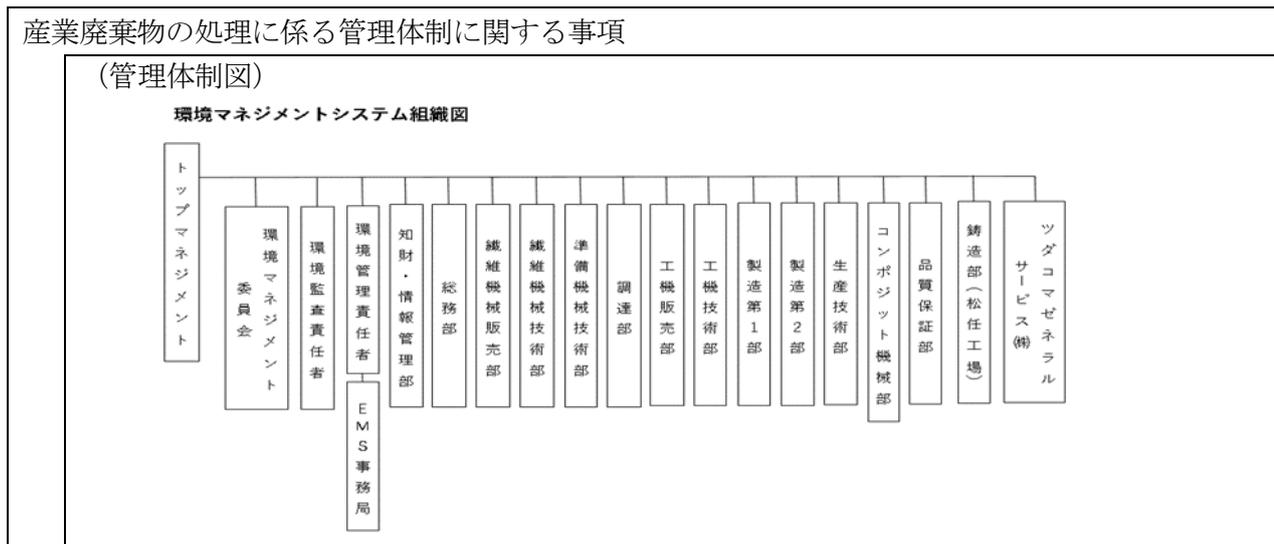


(第1面)

<p>産業廃棄物処理計画書</p> <p style="text-align: right;">令和7年6月18日</p> <p>石川県知事 馳 浩 殿</p> <p style="text-align: right; margin-top: 20px;">提出者 住 所 金沢市野町5-18-18 氏 名 津田駒工業株式会社 代表取締役会長兼社長 高納 伸宏</p> <p style="text-align: right; margin-top: 10px;">電話番号 076-242-1110</p> <p>廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。</p>	
事業場の名称	津田駒工業株式会社 松任工場
事業場の所在地	白山市宮永市町500番
計画期間	令和7年4月1日から令和8年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	銑鉄・鋳物製造業【2251】
②事業の規模	令和6年度実績 出荷額 18.1億円 銑鉄鋳物製品生産量 6,324トン
③従業員数	45名(松任工場)
④産業廃棄物の一連の処理の工程	



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙1	
	排出量	別紙1	
	(これまでに実施した取組) ・発生抑制 ① 中子の軽量化、使用量の削減 ② 铸造方案見直しによる枠当り込め数増加で効率向上し、製品トン当たりの造型砂使用量の削減 ③ 資材購入品のプラレット、板レットの回収依頼 ④ グラインダレス化による砥石使用量削減		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙2	
	排出量	別紙2	
	(今後実施する予定の取組) 現状実施の発生抑制取組みを継続実施		

産業廃棄物の分別に関する事項

① 現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 鉦さいの分別徹底により管理型埋立量の削減実施 廃プラスチックの分別徹底による管理型埋立量の削減実施
② 計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 鉦さいの分別徹底の継続実施 廃プラスチックの分別徹底の継続実施

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
① 現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	— t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	— t	t
	(今後実施する予定の取組)		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
① 現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	— t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	— t	t
(これまでに実施した取組)			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	— t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	— t	t
(今後実施する予定の取組)			

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
① 現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	— t	t
	(これまでに実施した取組)		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	— t	t
	(今後実施する予定の取組)		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙1	
	全処理委託量	別紙1	
	優良認定処理業者への処理委託量	別紙1	
	再生利用業者への処理委託量	別紙1	
	認定熱回収業者への処理委託量	別紙1	
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	別紙1	
	(これまでに実施した取組)		
第2面に記した産業廃棄物の発生抑制を実施するとともに、分別の徹底を図り、再生利用業者への処理委託量を低減し、管理型埋立量を削減実施。			

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙2	
	全処理委託量	別紙2	
	優良認定処理業者への 処理委託量	別紙2	
	再生利用業者への 処理委託量	別紙2	
	認定熱回収業者への 処理委託量	別紙2	
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	別紙2	
	<p>(今後実施する予定の取組)</p> <p>現状実施の取組みを継続実施する。 なお優良認定処理業者への処理委託量については、認定状況を確認したうえで別途検討していく。</p>		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「—」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

前年度（令和6年度）の産業廃棄物排出量

（単位：ト）

	ガラスくず,コ ンクリートくず, 陶磁器くず	廃プラス チック類	木くず	鋳さい	合 計
産業廃棄物 排出量	0.5	2.8	12.2	1,659.2	1,674.7
自ら再生利用を 行った量	0	0	0	0	2
自ら熱回収を 行った量	0	0	0	0	0
自ら中間処理に より減量した量	0	0	0	0	0
自ら埋立処分又 は海洋投入処分 を行った量	0	0	0	0	0
全処理委託量	0.5	2.8	12.2	1,659.2	1,674.7
優良処理認定業 者への処理委託 量	0.5	2.8	12.2	0	15.5
再生利用業者へ の処理委託量	0	0	0	1,659.2	1,659.2
熱回収認定業者 への処理委託量	0	0	0	0	0
熱回収認定業者 以外の熱回収を 行う業者への処 理委託量	0	0	0	0	0

今年度（令和7年度）の産業廃棄物排出量

（単位：トン）

	ガラスくず,コンクリートくず,陶磁器くず	廃プラスチック類	木くず	鉱さい	合計
産業廃棄物排出量	0.5	4	12	1,850	1,866.5
自ら再生利用を行った量	0	0	0	0	0
自ら熱回収を行った量	0	0	0	0	0
自ら中間処理により減量した量	0	0	0	0	0
自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0	0	0	0	0
全処理委託量	0.5	4	12	1,850	1,866.5
優良処理認定業者への処理委託量	0.5	4	12	0	16.5
再生利用業者への処理委託量	0	0	0	1,850	1,850
熱回収認定業者への処理委託量	0	0	0	0	0
熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0	0	0	0	0